



THE Y'S MEN'S CLUB OF SAPPORO
CHARTERED ON NOVEMBER 21, 1955

2018年6月

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(561)5217

札幌クラブ

The Service Club of YMCA
The International Association of Y's Men's Clubs

EF/JEF エンダウメント基金/東日本区ワイズ基金

— 主 題 —

国際会長	「Let Us Walk in the Light-Together」 —Fellowship across the Borders—	Henry Grindheim (ルウエ)
アジア会長	「Let Us Walk in the Light-Together」	Tung Ming Hsiao (台湾)
東日本区理事	「広げよう ワイズの仲間」	栗本 治郎 (熱海)
北海道部部长	「EMCの強化」	森 熊治郎 (札幌北)
札幌クラブ会長	「楽しいワイズ」	柴田 伸俊 (札幌)

札幌クラブ役員

会 長	柴田 伸俊
副会長	中田 千鶴
書 記	中田 靖泰
会 計	秋葉 聡志
直前会長	宮崎 善昭

今月の聖句

「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主である。」
マルコによる福音書 2章 27～28節 佐藤雅一選



「自然の恵みに感謝！」

札幌クラブ会計 秋葉 聡志

6月に入って、タケノコ採りに行ってきました。朝の4時前に起き、簾舞に住む山菜チームメートの友人宅に4時40分に集合し、車を乗り換えて、黒松内に向けて出発しました。私のメネットと合わせて3人の山行です。数年前にタケノコ採りの楽しさを教えてもらってから毎年恒例の季節行事になっています。

当日は天気にも恵まれ、中山峠を越えて、ニセコ、蘭越を通過し、黒松内から島牧方面へ抜ける月越峠へと向かいます。この峠一帯は、広大な笹原になっていて、タケノコ採りのメッカになっています。親指と人差し指で輪を作ったぐらいの太いタケノコが採れるので、遠くからも大勢の人が訪れます。毎年、遭難者が出るのでも有名です。笹原の入り口には注意を呼び掛ける看板があって、これまで死者も出ているそうです。迷惑をかけないように装備を万全に整えて望むのが山菜採りのマナーです。

午前7時過ぎに現地に到着。すでにあちこちに何台も車が停まり、多くの人が入っています。天然ものの山菜は時期を待ってはくれませんので、人間様が合わせるしかありません。月越峠は、5月下旬から6月上旬にかけてがベストシーズンなので、時期めがけてみんなが訪れるのです。そして、それぞれに自分の場所を持っていますので、広大な笹原のあちこちに散っていきます。

私たちがマイブレスに移動し、戦闘開始です。上下のカップに長靴、手には厚手のゴム手袋、頭にヘルメット、前に山菜採り専用の帆前掛け、後ろに専用リュックを背負い、完全防備で笹やぶに突入です。笹やぶの中に入ると、周りが見えないので方向感覚を失います。入口に拡声器を置き、サイレンを鳴らして、それを頼りに戻ります。行く手を阻む笹を掻き分け掻き分け進みますから、結構体力を使います。まずは、しゃがんで周囲を見回し、頭を出しているタケノコを探します。見つけると視線をそらさずそこまで移動し、採りごろかチェックした後、頂戴します。袋状になった帆前掛けに一旦納めて、たまったら後ろのリュックに移します。夢中になって採るうちに、リュックが重くなって動けなくなることがあるので要注意です。時々、「おーい」と声を出して仲間の位置を確かめ、離れすぎないようにします。山菜採りもチームワークです。

場所を変えて2ラウンド、約4時間の作業でリュック満杯になるほどの大漁に大満足の一日でした。自然の恵みに感謝です。(編集部注： 孟宗竹の北限は北海道松前町です。札幌では「たけのこ」と言えば「笹の子」です。)



写真上：今日の収穫はこれだけ・・・ということはありません。

ほう2018年5月例会 在籍会員 10名 例会出席 6名 メネット 0名 メーカーアップ 0名
出席報告 ゲスト 31名 ビジター 0名 計 7名 出席率 60%

札幌ワイズメンズクラブ

2018年6月例会

日時 2018年6月19日(火) 18:30~20:30

会場 北海道 YMCA

札幌市中央区南11条西11丁目1-2

Tel. 011-561-5642

会費 1,000円

プログラム

司会 秋葉 聡志

- ① 開会点鐘 札幌クラブ会長 柴田 伸俊
 ② ワイズソング・ワイズの信条 全員
 ③ 聖句 佐藤 雅一
 ④ 開会挨拶 札幌クラブ会長 柴田 伸俊
 ⑤ 誕生日 なし
 結婚記念日 なし
 ⑥ 卓話

「行啓通り商店街の活動について」
 行啓通り商店街 理事長

藤井 礼子様



- ⑦ 諸報告
 ⑧ YMCA報告 担当主事 佐藤 雅一
 ⑨ みんなで歌おう



夏の思い出

- ⑩ 閉会挨拶 札幌クラブ会長 柴田 伸俊

何故この聖句を? 佐藤 雅一

YMCAでも「働き方改革」が大きな問題となってきました。労働時間や休日数が改革の中心に有り、数字がばかりが話題になりますが、私たちの「働き方改革」は主の御心にかなっているかを問いたいと思います。

札幌ワイズメンズクラブ 5月例会

日時: 2018年5月15日(火) 19:00~20:00

場所: 北海道YMC 101教室

参加者: 秋葉、佐藤、柴田、中田、伏木、宮崎

柴田会長のご友人である寺坂崇さんをお招きしました。寺坂さんは「まなびデザイン」などで今急速に失われつつある子どもの遊び場作りに奮闘されています。子どもの成長に「あそび場」が必要な理由、今それが失われている理由、「あそび場」を回復する試みとしてのplayland。日本、北海道におけるplaylandの現状、等々を熱く語られ、一



写真上: 前列左から、中田、寺坂、柴田
 後列左から、佐藤、宮崎、伏木、秋葉

チミケップワーク2018

今年も下記日程にてチミケップワークが実施されます。二本松次期部長より熱いメッセージが届いております。

会員は奮って参加いたしましょう。

今年もワイズメンズクラブ北海道部として、下記内容でチミケップワイズワークを実施したくご案内申し上げます。

記

日時 平成30年7月14日(土) 午後

平成30年7月15日(日) 午前

場所 チミケップキャンプ場 現地集合。

作業内容 キャンプ場内 整備

ペンキ塗り、網戸の取り付け、

キャビン修理、場内草刈り等。

宿泊 キャンプ場に泊まることは可能です。宿泊を希望される方は事前に北見YMCA、もしくは二本松までご連絡下さい。

*ワークの実施日時は 上記以外でもいつでも受け付けてくれます。現在キャンプ場は整備の真っ最中で、いくらでも人手がほしい状態です。ご都合がつけば、6月中でも行けば、何かかにか作業があります。

*食事等はその時の状況にもよるのですが、申し訳ありませんが、基本自己責任でお願いします。

次期北海道部長 二本松 能敬

5月例会卓話

まなびデザイン

～こどものあそび場づくり～

こども体験活動の場Coみどりスタッフ

寺坂 崇様



■子どもはどこで遊ぶ？

現代の子どもたちはどこで遊ぶでしょう。かつての遊び場所だった公園には禁止事項が掲げられ、児童館など屋内の居場所も増えたため、野外で子どもを見かけることも少なくなったと感じるかもしれません。実は、子どもが子どもらしく振舞うことのできる環境が減りつつあります。

■プレーパーク（冒険遊び場）とは

子どもたちが自由に遊べる場所としてプレーパーク（冒険遊び場）という場所があります。この遊び場のモットーは「自分の責任で自由に遊ぶ」です。もう少し分かりやすく言うと「ケガと弁当は自分持ち」のように、自分たちで気を付けながらだったら自由に遊んでいいよ、という遊び場です。そこでは、私たちがかつて見たような生き生きと遊ぶ子どもたちの姿を見ることができます。

プレーパークは Adventure Playground と呼ばれ、ヨーロッパ発祥の考え方として欧米諸国に広まり、日本では 1970 年代後半に東京世田谷区から始まりました。日本最初の冒険遊び場「羽根木プレーパーク」を皮切りに、現在日本で 400 か所ほどの遊び場が存在しています。

■遊び場が必要な理由

どうしてそんな遊び場が必要になったのか。それは現代の子どもたちを取り巻く環境の変化にあります。遊び場のスタッフでは、それを「四間の欠如」と呼んでいます。①遊ぶ空間がない。②遊ぶ時間がない。③遊ぶ仲間がない。④大人の目が届かず子どもたち自身のルールで遊べる隙間がない。

こうした環境にいる子どもたち、ひいては大人、地域にとって、遊び場は交流の場としても機能します。

■北海道のプレーパーク

実は、札幌でもプレーパークの活動は始まっています。札幌市が推進事業として政策の 1 つに位置付けて 10 数団体が活動しているほか、北海道初の常設型プレーパークとして子どもの体験活動の場 Co みどり（こみどり）にて、「Co みどりプレーパーク」が設置されました。

Co みどりは札幌市の補助事業として 2015 年に NPO 法人さっぽろ AM スポーツクラブが受諾した事業で、様々な子どもの体験の場として始まりました。なかでも Co みどりプレーパークは、年間 180 日プレーパークを開いています。

■Co みどりプレーパーク

子どもの遊び場として開くうちに、いろいろなニーズや事情が見えてきました。

- ・開始 2 日目に「こんな遊び場を待ってたんだ！」と大きな声で喜んだ子は、毎日遊びに来るようになり近所のおじさんから「今日も土木工事（どろ遊び）か」と親しく声をかけられました。

- ・公園とどっちが楽しいかと問われた子は「断然 Co みどり！やりたいことがほぼできる。もっと小さい子も自由に遊べるような場所にしていきたい」と自ら声をあげました。

- ・「どろ遊びができるところ“を検索して、ここに来ました。」そう答えた幼児連れの母親がいました。

- ・子どもが自分の身体にペタペタ雪をつけるのを 1 時間以上付き合った大学生のボランティアもいます。

- ・遊ぶ子どもたちのために、と鍋いっぱいのおふきイモを持ってきてくれたお母さんもいます。

Co みどりはそんな、子どもを中心として様々な人が交流する場として発展してきました。

■あそび場をつくろう！

Co みどりを運営してきて、ふと自分の足元を見ると、遊び場の問題が身近にあることが分かりました。私が住む桑園地区は年に何棟ものマンションが建つ再開発地区で、小学校に通う児童が 1,000 人を超える勢いです。（札幌で 1 番多くなるでしょう。）

そんな環境にも関わらず、子どもが遊べる環境がほとんど整っていないのです。そこで、ただただ行政の支援を待つのではなく、自分たちでできることを考えましょう、と声をかけた結果、「桑園あそびばプロジェクト」が生まれました。「桑園に常設の遊び場をつくお花見？る」という目的のもとに、現在活動を始めています。

■子どものあそび場とは？

子どものあそび場づくりを通じて、子どもたちにだれかのために想う「共感力」や、行動してみて初めて分かる「経験知」を養っていくことができると考えています。そんなことを見守ることができる大人・地域を増やしていくために行動することが、私の役割だと思って活動をしています。

YMCA ニュース 担当主事 佐藤 雅一

ご存知ですか？父の日も Made in YMCA

① 行啓通ふれあい広場

6月15日（金）行啓通商店街で行われた「ふれあい広場」にYMCAが今年も参加しました。ベトナムハンディキャップセンターで作っているビーズキーホルダーやベトナムグッズの販売を行いました。

② 水泳フェスティバル

6月17日（日）
9:30～12:00、YMCAのプール全体を使ってのゲーム大会が行われ、30名ほどの子供たちが参加しました。普段とは違うプールでの楽しい遊びが体験できる他、着衣永体験などを通じた水の安全教室が行われました。



③ 水の安全キャンペーン

毎年全国のYMCAでは、夏を迎えるこの時期に水難事故を防ぐ目的で水辺での安全について理解を深める機会を設けています。子供達にはパンフレットを配布し、家庭でも水の安全について親子で学んでもらうと共に、各クラスで着衣永体験が行われます。又、近隣の小学校と協働で、着衣永体験・水の安全教室を行う準備を進めています。



④ フェアトレードフェスタ

6月23日（土）・24日（日）大通り公園西10丁目でフェアトレードフェスタ in さっぽろが開催され、北海道YMCAも参加します。ベトナムYMCAハンディキャップセンターで作っているビーズキーホルダーとコーヒーを販売します。YMCA以外にも30店舗ほど出店するほか、音楽・ダンス・講演などのイベントも行われます。北海道YMCAはこのイベントに協力し、運営委員に加わると共に宝くじ協会から寄贈を受けたテントを無償で貸し出しています。会場内にはYMCAのテントが目立っていますので、是非遊びに来てください。お待ちしております。



6月号16月日（第3日曜日）は「父の日」です。「バレーボール」、「バスケットボール」を考案し、広めたのはアメリカのYMCAです。さらに、日本では、「青年」という単語を創り出したのはYMCAです。ここまではご存知の方は多いと思いますが、「父の日」も Made in YMCA だということをご存知の方はそう多くはないと思います。

男手一つで6人の子供を！

アメリカで愛書の「父の日」は1910年6月19日アメリカ、ワシントン州スケボーンSpokaneのYMCAでソノーラ・ドットという婦人が始めました。ソノーラの父ウイリアム・ジャクソン・ドットは南北戦争（1861-1865）に従軍しました。留守の間、ソノーラの母は女手ひとつで6人の子供を守り育てました。（ここまでは母の美談です。）やっとなつて夫が帰ってきたのですが、母は長い間の苦勞がたたり病に倒れ、あつという間になくなってしまいました。父のウイリアムはそれから再婚もせずに今度は男手ひとつで6人の子供を立派に育て上げました。

1909年、『母の日』が「国の休日」になるのを見たソノーラは母親だけでなく、父親も称えられるべきだと考え、自分の教会の牧師に「父」を称えてほしいと頼みました。ソノーラは最初は父の誕生日である6月5日を希望したそうですが、牧師の準備が間に合いませんでした。そして、結局6月の第3木曜日にスポケーンYMCAで最初の「父の日」が行われたのです。

ウイルソン、クーリッジ、ジョンソンと歴代大統領は「父の日」を「国の休日」にしようと努力し、議会に法案を提出したのですが、そのたびに否決されました。否決の理由はいずれも「商業化され過ぎている」ということでした。アメリカで「父の日」が正式に「国の休日」になるのは、1910年スポケーンYMCAで「父の日」が祝われてから実に61年後のことでした。

編集部注：この文は2014年札幌クラブブリテン6月号に中田千鶴会員が書いたものですが、西日本区高槻ワイズメンズクラブのブリテンに転載して頂きました。それを機に1部を再録致します。

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のためにYMCAに尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう。
4. 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席第一、
社会には奉仕第一を旨としよう。